



つながろう

CO-OPアクション情報

2012年6月27日

第18号

「にこちゃん号」で笑顔を広げたい

いわて生協 移動販売車の運行スタート



初日から、大賑わいの「にこちゃん号」。順番待ちの間に自然と会話が生まれる。

6月18日、いわて生協は、被災地での買い物を支援する取り組みとして、ベルフ西町の商品を積み込んだ移動店舗「にこちゃん号」の運行をスタートさせました。



「にこちゃん号」の全景。

いわて生協は、6月18日、宮古市内に点在する仮設住宅17カ所（680戸）を2つのコースで巡る移動店舗「にこちゃん号」の運行を始めました。

取り扱いアイテムは約600点で、そのうち6割が生鮮品です。商品は、ベルフ西町の商品を積み込みます。「にこちゃん号」の駐車場所は、地域事業者の復興の妨げにならず、また、仮設住宅の方とその周辺にお住まいの方が交流しやすい場所を選びました。いず

れは2号車を用意して、けせん（大船渡市、陸前高田市）・釜石地域でも運行させる考えです。そのための募金活動もスタートしました。

いわて生協常務理事の阿部慎二さんは「移動店舗は過渡的な存在です。最終目的は皆さんが以前の暮らしを取り戻すこと。私たちは『にこちゃん号』が役割を終える日が1日でも早く訪れることを願っています」と話していました。



「鮮度と惣菜の品揃え」に力をいれており、地元では魚1匹丸ごと買う習慣があるため、「丸物」を用意して販売。



仮設住宅での草取りボランティアの様子。

人びとのつながりが 新しい力を生む

～コープあいち 地域交流ツアー開催

コープあいちでは、6月2～4日の3日間、岩手県の大船渡市と陸前高田市を巡る地域交流ツアーを実施し、コープあいちの組合員31人が参加しました。愛知県の地域ネットワークづくり活動を背景にした継続的な取り組みが、現地の皆さんの強いつながりを生み出しています。

継続した取り組みで 一人ひとりを支えたい

コープあいちが、地域交流ツアーを実施したのは、今回で5回目。ツアーでは、今夏、岩手で行なわれる七夕祭りを一緒につくりあげていく打ち合わせを継続的に行なうなど、「これから」のことを地域の皆さんと一緒に考え合ってきました。「行って帰って終わる交流ではなく、人々がつながることで、何か新しい力が生まれる、そんな交流を目指します」とコープあいち東日本被災地支援担当の岩本隆憲さん。



七夕祭りの打ち合わせ会場。玄関先には、ツアー当日、愛知県よりコープあいちのトラックでお届けしたタオルが。

現地では、大規模な仮設住宅に物資支援やイベントが集中する一方、小規模仮設住宅にはそれが届きにくい現状があります。

また、みなし仮設住宅に入られた方には、情報すら届きにくく、多くの在宅生活者の方も家族を失うなど、はかり知れないダメージを抱えたままです。支援や情報の格差が、かつて仲間意識のあった住民たちに亀裂を生じさせかねません。

被災地で出会う人の多くは、表面上は笑顔でも、拭い去れない傷や不安を抱えています。そんな状況だからこそ、コープあいちでは、一人ひとりに寄り添う交流を大切にしています。深く相手を理解し、自分のことのように考え

行動することで、人は友として受け入れ、初めて心を開いてくれると感じたといいます。

つながることで、見えてくるものがある

コープあいち理事長補佐参与の向井忍さんは次のように語ります。

「昨年4月に陸前高田の街を目にしたとき、生協は何ができるかとか、個人で何ができるかとか、そういう次元の問題ではないのだと、言葉を失いました。何をすればよいのかすら分からない中で、まず人と人がつながることで、何かしらの解決の糸口が少しずつ見えてくる。これまでの活動は、まさにそんな繰り返しの中でつくってきたのだと思います」

人とつながることを大切にする。このような活動ができているのは、震災以前からコープあいち参加し、愛知県全体で、安心して暮らせるネットワークづくりをすすめてきた活動の背景があるからだといいます。

これらの活動を通して、被災地への取り組みは、支援ではなく「協同」なのだといふ気がされたそうです。

今後も、コープあいちは、継続したつながりを被災地と持ち続けていきます。



今回のツアー参加者。

お知らせ：ツアーの動画は、コープあいちのサイトで公開されています。「コープあいち 復興ブログ」で検索。
http://www.coop-aichi.jp/fukko/all_post
 復興支援ブログ↑
<http://www.youtube.com/user/coopaichiFUKKO/videos>
 ブログの動画ボックス↑



創刊号～50号までの「ボラセンニュース」。「みやぎ生協ボラセンニュース」はHPで見ることができます。
「みやぎ ボラセンニュース」で検索。 <http://blog.miyagi.coop/jishin01>

被災地のいまを伝えていく ～みやぎ生協ボラセンニュース、50号発行

みやぎ生協では、震災直後から毎週のように「みやぎ生協ボラセンニュース」を発行し、6月15日に50号を発行しました。記事をつくらせている、みやぎ生協生活文化部の須藤敏子さん、山田尚子さんにお話を伺いました。

毎週発行することで、「覚悟」を伝えようとした

みやぎ生協ボランティアセンター発行の「みやぎ生協ボラセンニュース」(以下、ボラセンニュース)が、今年6月15日に50号を迎えました。

みやぎ生協生活文化部の須藤敏子さんは、「ニュースは定期的な間隔を空けず発行するのが鉄則だと思っています。それはとても大変なことですが、多くの人に関わってもらって本気でボランティア活動を広げていく、その覚悟を見せていくには、毎週発行していくことが大切だと思ったのです」と話します。



編集業務を行なう山田尚子さん。

被災した人たちに寄り添う、経済的支援を行う

ボランティア活動は当初の物資支援や清掃などから、普段の生活にどう戻っていくかを考えながら被災した人たちに寄り添う形へと変わってきています。

「サロン活動を通じた被災者の孤立化防止やコミュニティづくり支援は、これからも継続していきますが、もうひとつの課題は、ボランティアとして、生活再建のためにどんな経済的支援ができるかです」と須藤さん。被災した方々が作ったエコたわしを「ボラセンニュース」で紹介して販売を応援するという事も考えているそうです。

変わり続ける支援のかたちに応えたい

また、須藤さんは、今後家を建て直したり、集団移転が決まったりすることで、ようやくでき始めたコミュニティがまた壊れることを心配しています。

「仮設住宅に残った人たちは焦りや疎外感を感じたりするだろうと思うんですね。そうした人たちをどう支えていくか…。考えさせられることが多くあります」

被災地の人たちがいま怖れているのは「忘れられること」だと言います。編集・レイアウトを担当するみやぎ生協生活文化部の山田尚子さんは、

「忘れられないように、現状を直に見てもらいたい。そういうことを『ボラセンニュース』で発信していかなければならないと思っています」といいます。山田さんにとって「ボラセンニュース」は、震災の時支えてくれた人たちへのお礼でもあります。

「全国の皆さんから、物的支援や心のもったメッセージをいただきました。1つひとつにお礼ができてないのが気がかりです。せめてこのニュースで、こんな風に元気にやっていますということをお伝えしたいと思います」



掲示板の分かりやすい場所に張られた「ボラセンニュース」50号。

2万人が来場 いわて生協 地産地消フェスタ

5月19～20日、いわて生協ベルフ牧野林で「第3回復興支援いわて生協地産地消フェスタin牧野林」(以下、地産地消フェスタ)が開催され、2万人が訪れました。



多くの人でにぎわうフェスタ会場。

ベルフ牧野林で開催された「地産地消フェスタ」は、いわて生協と岩手県の共催で行なわれました。

このイベントは「地元岩手の商品をもみんなで利用して、岩手を元気にする」というテーマで2年前より始まり、昨年の東日本大震災を経て、復興支援という大きな目的が加わりました。フェスタでは、沿岸被災地域から出店

した28の生産者・メーカーをはじめ、地元の多くのメーカーがブース出しました。

いわて生協常務理事の阿部慎二さんは、「被災した商店の出店数が昨年より増えてきているのがうれしいです。今回は、県の振興局も強力にサポートしてくれました。目指すものは同じなので、良い関係を築くことができ、

今後につながっていけば」と話していました。

このほか、宮古高校の生徒が招待され、楽器を演奏したり、いわて生協の産直アイコープ真崎わかめを生産している田老町漁協・青野滝養殖組合長の山本泰規さんより、被災地の現状報告が行なわれるなど、多くの人でにぎわっていました。

被災地に寄り添う、ふるまい企画開催

6月9、10、12日の3日間、被災地域や仮設住宅に隣接するみやぎ生協10店舗で、「食のみやぎ復興ネットワーク」の「被災地に寄り添うふるまい企画」が開催されました。



ふるまいには、多くの方が列を作った。

6月12日は「宮城県民防災の日」です。この日程にあわせ、「食のみやぎ復興ネットワーク」は、みやぎ生協10店舗でふるまい企画を行ないました。蛇田店(石巻市)では、エスピー食品(株)がカレーをふるまい、(株)J-オイルミルズはオリーブオイルの小瓶をプレゼント。午後には、カルビー(株)のキャラクター

が子どもたちにお菓子を配りました。

「ふるまい企画」を一斉に開催するのは今年3月に続いて2回目。今回はメーカーや関連業者など36団体が参加し、試食や商品のプレゼント、料理のふるまいを行ないました。蛇田店店長の伊藤勝巳さんは、「ふるまい企画の支援に対しても、メンバー(組合員)さんの期待は我々が思っている以上に大きい」

と話します。

みやぎ生協・食のみやぎ復興ネットワークの藤田孝さんは、「参加団体は被災地を支援したいという思いを持ってくださり、呼び掛けに即座に答应ってくれたことが大変うれしかったです。ここでのつながりを生かして、これからも被災地に一緒に寄り添う機会をつくっていきたいです」と感謝していました。

放射性物質摂取量調査 参加者の「つどい」を開催

5月25日、コープふくしまは、昨年11月から今年4月にかけて実施した食品からの放射性物質摂取量調査の結果報告と2012年度に実施する同調査参加者への説明会をコープマートいずみ店で行ないました。



距離が近く、質問しやすい雰囲気の下、「つどい」が行なわれた。

5月25日、コープふくしまは、放射性物質摂取量調査の結果報告と2012年度の調査の説明を行なう「参加者のつどい」を開催しました。この調査は日本生協連が全国18都県(250家庭)で行なったもので、そのうち福島県内では100家庭が参加しました(本誌16号参照)。

つどいには、2011年度の調査参加

者と2012年度の参加予定者計16人、そしてコープふくしまの組合員理事も参加しました。

コープふくしま常務理事の穴戸義広さんは、「漠然とした不安で県外に避難されている方々が、この取り組みや結果を知ることによって、少しでも安心して福島に戻って来られる一助になれば」と話していました。

1回目の摂取量調査を受けた福島市内に住む参加者の一人は、「放射性物質に関して分からないことも多かったため、今日は納得できるまで調査結果について質問しました。生協で調査をして大丈夫ということでしたので、野菜をご近所に分けたり、孫にも安心して食べさせることができます」と喜んでいました。

「たまり場」へみんな 「こらんしょ」!

「こらんしょ」とは福島弁で「おいでになってください」の意。5月29日の「たまり場 こらんしょ ふたば」(コープふくしま主催)にはさいたまコープの組合員理事・職員もかけ付けました。



お菓子を食べながら、話がはずむ。

福島県内各地で、被災された方の交流の場を設けているコープふくしま。その中で、南相馬市の仮設住宅で行なわれる「ふれあいひろば」には、さいたまコープも運営に協力してきました。

今年4月からは、新たに、郡山市の富田町仮設住宅で「たまり場 こらんしょ ふたば」が開催されて

います。こちらにも、毎回さいたまコープは協力しており、3回目の5月29日には、組合員理事と職員の10人が福島に足を運びました。

コープ商品のお菓子を用意してきた、さいたまコープ組合員理事の新井ちとせさんは、次のように思いを語ります。

「商品を真ん中にして、お茶を飲みな

がらわいわい世間話をして『今日は楽しかったよ』と言って帰っていただける関係を作っていけたらいいなと思いました」

コープふくしまの生活文化グループで郡山市担当の松崎美智子さんも、「道具など、福島で準備できるものはこちらで準備したりと、互いに協力して活動できるのがうれしいです」と話していました。

いわてのサロンに お菓子1年分を贈呈

コープかがわは、5月よりいわて生協のふれあいサロンに毎月500人分のお菓子を贈呈する取り組みを始めました。今後、四国4県持ち回りで毎月お菓子の贈呈を行なっていきます。



お菓子にメッセージをつけて、岩手へ送った。

コープかがわ理事長・組合員代表が4月にいわて生協や陸前高田の市役所を訪問しました。参加者の1人は、「実際に被災地に行かなければ分からないことが多くありました。ふれあいサロンでお菓子が必要とされているということもその一つです」と話します。

この参加者の報告を受け、コープかがわでは、人びとがつながるきっかけ

となるよう、ふれあいサロンで使用するお菓子500人分を5月より贈ることに決めました。

5月25日には、コープかがわの役員・組合員理事が岩手県を訪問。大槌町で開催されたふれあいサロン3カ所にお菓子とメッセージカードを届け、地域の方と一緒にスカーフ作りなどを行ないました。

このコープかがわの取り組みが四国全体の生協に伝わり、今後は四国4県で、毎月各県順番に、500人分ずつお菓子を贈る取り組みへと広がっています。



地元、香川のお菓子（せんべい、和三盆など）が送られた。

「協同の力をあらためて 感じる事ができました」

5月26日、京都生協、大阪いずみ市民生協、そして鳥取県畜産農協によるボランティア隊が、合同で宮城県登米市の仮設住宅と南三陸町志津川の漁港で支援活動を実施しました。



炊き出しでは、仮設住宅にお住まいの方とたくさんお話をすることができた。

京都生協と大阪いずみ市民生協は、「被災地生協に代わって被災地生協の産直先の支援を」という思いで震災直後から支援を行ない、現在も継続して活動しています。5月26日に行なわれた取り組みでは、炊き出しとカキ養殖用のイカダを固定するための土のう作りを行ないました。南三陸町・志津川でのボランティア活動は、京都生協

は今回で6回目、大阪いずみ市民生協は4回目です。

登米市仮設住宅自治会長の宮川安正さんは、「自立して頑張るために、皆さんの支援は本当にありがたいです。仮設住宅では、350戸の皆が一つ屋根の下で暮らす家族だと思っています。志津川に帰れるまで、皆で励まし合って頑張って生きていきたいです」と話していました。

京都生協・商品政策室地産地消推進チーフの福永晋介さんは、「一人の力は小さいけれど、それが集まると大きくなる。生協として、そのつながりを作り続けたい」と話していました。

また、大阪いずみ市民生協のメンバーは、翌日27日は岩手県大船渡市に移動し、コープあいちと共に支援活動を行ないました。

ポータルサイト エフコープ 布ネックレス制作キットをプレゼント

エフコープ（福岡県）の大里区域委員会は、5月8日、みやぎ生協に、「布ネックレス」を作るキット50個と布を贈りました。布ネックレスは、糸や針を使わないので、「ふれあい喫茶」などでも簡単に作れると、好評です。

「ようやく暖かくなってきたから、おしゃれして外へ出掛けたいね」と話されていたタイミングでのプレゼントとなり、多くの方が喜ばれたそうです。他にも、福岡のお菓子などをみやぎ生協に送り、子育て広場などで活用されました。



簡単な材料で作れる布ネックレスは、多くの方に喜ばれました。

ポータルサイト 不二つくばフーズ（株）「味、品質の更なる向上に取り組みます」

茨城県坂東市の不二つくばフーズ（株）は、「CO・OPぎんなんがんも」などの冷凍食品を製造しています。

震災後は多かった余震ですが、現在は少なくなり、安定した生産をしています。不二つくばフーズ工場長の岡田さんは、

「震災後、電力制限により生産量は減少しましたが、現在は原料も問題なく入手できています。今後は製品の味、品質の更なる向上に取り組み、新製品やリニューアル品の生産を進め、組合員の皆さまへお届けしてまいりますので、より一層のご愛顧をお願いいたします」と話していました。



不二つくばフーズ（株）の皆さん。



「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に入り、見たもの、感じたものをお伝えしていきます。

「仮設住宅は、ホント息が詰まるから」。
生協のあるイベントで、熱いコーヒーをすすりながら組合員さんがぼつりと言う。
「ここに来ると、ほっとする」。
「狭いですからねえ。エコノミークラス症候群みたいになるそうですね」と私が言うと、「それもあけど……」と、言いにくそうに打ち明けてくださいました。
仮設住宅では、周囲に気兼ねして皆さん息をひそめるように暮らしているそうです。
小さなお子さんが騒ぐと、手を上げてしまうお母さんも少なくないとか。
「泣き声が聞こえると、お菓子を持って様子を見に行ったりしてはいるのよ。あとは仕事が見つからない方が、荒れた生活を送られていたり……心配なことはたくさんあるわね」
「ストレス解消のために何ができるでしょうか。できることは、いろいろとありそうですね」
「そうよ、あなた企画してよ。みんな人がいいから、遠慮して言えないのよ」
そんなわけで、宿題をもらって帰ってまいりました。皆さんも、この宿題、考えてみてください。



宮城県某所。街中に落ちていた茶碗。
※写真と本文は関係ありません。

復興関連情報 予定一覧 (各生協の復興支援に関する予定を action@coop-book.jp まで、ぜひお寄せください)

【岩手県】

いわて生協 ●●●●● ●内陸に避難されている方に向けた「ふれあいサロン」(6/29 10:00～12:00 南昌荘、ベルフ青山)
●夜に開催される「ふれあいサロン」(6/30 ※毎月第4水曜日開催)
●6月より、「釜石ふれあいサロン」スタート
他、各地で「ふれあいサロン」が開催されています。

【宮城県】

みやぎ生協 ●●●●● ●「みやぎの子どもたち生きる力(思い出づくり)支援」プロジェクト(小学生:8/4～6、8/7～9、8/19～21、8/21～23)
(中学生:7/23～25、8/19～21)
●石巻支部復興を願う夏祭り(8/11 10:00～16:00、石巻支部敷地内)
●気仙沼支部復興を願う夏祭り(8/12 夕方より、気仙沼支部敷地内)

【福島県】

コープふくしま ●●●●● ●サンネット共同購入「がんばろうふくしま農産品応援ボックス」を企画(6月1週～7月4週)
福島県生協連 ●●●●● ●福島の子どもの保養プロジェクト(毎週末実施)

【兵庫県】

コープこうべ ●●●●● ●東北支援活動サポート募金(コープこうべ独自企画)実施(7月、共同購入、店舗)
●福島支援のつどい～西崎伸子先生(福島大学准教授)講演会(7/4、姫路じばさんビル)
●「防災学習会 必ず役に立つ! わが家の防災対策」(7/31、明石市生涯学習センター、講師:山下順正さん)

支援募集情報

○いわて生協:

- 被災地ツアー(観光を含んでも可能)、被災地ボランティアツアーの企画・実施
 - 被災地のお母さんたちや福祉作業所などの復興応援商品の販売協力(宅配以外のイベント等での取り扱い協力など)
 - 被災メーカーの商品や復興応援ギフトなどの店舗・宅配での販売協力
- 連絡先は、いわて生協組織本部・小野寺 真さん(019-603-8299 月～土 9:00～18:00)まで。

○みやぎ生協:

- 「みやぎの子どもたち生きる力(思い出づくり)支援」プロジェクト実施のため、募金をお願いいたします。
被災し、心理的ストレスを受けた子どもたちが「生きる力」をつけるため、さまざまな方のお話を聞いたり、体験したりするツアーを組み、子どもたちの未来に夢と希望を与えます。実施には3,000万円の費用が必要です。ぜひ、できる範囲で募金にご協力ください。問い合わせは、みやぎ生協専務理事スタッフ・五十嵐桂樹さん(022-771-1590)まで。
- ふれあい喫茶で使用する、お菓子(各地の名産品など)を募集しています。連絡先は、みやぎ生協ボランティアセンター(022-218-5331)まで。

○食のみやぎ復興ネットワーク:「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「JA いしのまき」に海水淡水化装置を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協 藤田 孝さん(022-772-6141)まで。

○福島県生協連:「福島の子どもの保養プロジェクト」の①スタッフ、②大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画(日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等)を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本 喜代江さん(024-522-5334)まで。

(保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください。また、夏休みの保養企画のご提案は、締め切らせていただきました。ご協力ありがとうございました。)

※その他:首相官邸HPにて「被災地の今」を伝える「私の復興便り」コーナー(<http://www.kantei.go.jp/fukkou/tayori/>)が開設され、震災を忘れないための取り組みとして、被災地や復興支援活動の様子を写真で紹介しています。読者の皆さまが撮った復興支援活動の様子などを、是非、投稿し、全国で共有してください。

本号外部取材スタッフ:秋山健一郎、荒川和巳、桐生広人、野口武、早坂恵美、前川太一郎